

■良岑安世 公卿。桓武天皇の皇子。臣籍に降り、諸芸に通じ、異母兄弟の嵯峨天皇を支えて、大任を果たした。

よしみねのやすよ

藤原種継暗殺 785＝ 桓武天皇の皇子に生まれる。母は女孀百済永継、10上の同母兄に藤原内麻呂の子冬嗣がいる。

長岡京中断・ 786＝ 1歳：のちの嵯峨天皇が誕生。

平安京遷都・ 794＝ 9歳：

・・・・・・ 800＝14歳：而立の年までは、狩猟を好んで、騎射を能くし、学問にはほとんど見向きもしなかったが、始めて孝経を読んだ際、儒教の教えここに極まると嘆息し、以後、勉学を志すようになる。

胆沢城設置・ 802＝17歳：良岑朝臣姓を賜与されて臣籍降下する。右京に貫付。

・・・・・・ 803＝18歳：漢詩のほか、歌舞・音曲など多くの伎芸も身に付けていたとされ、

桓武天皇没・ 806＝21歳：

伊予親王の変 807＝22歳： 右衛士大尉に任じられて、官界入りし、

・・・・・・ 808＝23歳：左衛士大尉、

嵯峨天皇即位 809＝24歳：右近衛将監。*嵯峨天皇の即位後に、従五位下・右近衛少将、

薬子の変・ 810＝25歳：丹後介を兼任、権右少弁兼丹後守、左少弁を兼任、但馬介を兼任。

・・・・・・ 811＝26歳：藏人頭と側近として嵯峨天皇に仕えた。その後、従五位上、

・・・・・・ 812＝27歳：正五位下、左衛門権佐を兼任。

・・・・・・ 813＝28歳：但馬守を兼任。従四位下、右馬頭、左馬頭、 左兵衛督を経て、左衛門督と武官として急速に昇進し、

凌雲集・・・ 814＝29歳：この年編纂された「凌雲集」に2首入集しているように、漢詩人としても一流で、

・・・・・・ 815＝30歳：左京に貫付。左京大夫に遷任。

・・・・・・ 816＝31歳：*同年齢で同じく天皇の側近であった藤原三守とともに、異例の若さで、参議に任ぜられ公卿に列した。右大弁・左衛門督兼任のまま、近江守も兼任続け、

文華秀麗集・ 818＝32歳：「文華秀麗集」に4首、 さらに、藤原冬嗣が政治を主導するようになると、

・・・・・・ 819＝33歳：この年嵯峨天皇が命じた「日本後紀」の編纂に、冬嗣らとともに参画、

弘仁格施行・ 820＝35歳： 従四位上、すぐに正四位下、続いて正四位上へ昇叙するという異例の出世、左大弁に転じる。

満濃池・・・ 821＝36歳：この年完成した「内裏式」の編纂にも、冬嗣らとともに参画、 冬嗣が右大臣になると、従三位・中納言。

最澄没・・・ 822＝37歳： 左衛門督から離れ、大伴親王(淳和天皇)の春宮大夫を兼任し、

嵯峨上皇・ 823＝38歳：*嵯峨天皇の譲位で、親王が淳和天皇として即位すると、正三位・右近衛大将に叙任し、引き続き、皇太子となった正良親王(仁明天皇)の春宮大夫を務める。

桓武平氏始・ 825＝40歳：嵯峨上皇の40歳を祝う宴では、中納言という高官ながら冷然院正殿の南階から降りて舞を踊ったという。

・・・・・・ 826＝41歳：*兄事していた冬嗣が死去すると、病と称して、出仕しなくなり、

経国集・・・ 827＝42歳：自ら編纂を主宰した「経国集」には9首が入集している。

・・・・・・ 828＝43歳： 大納言に至るが、

・・・・・・ 830＝45歳： 没した。没後、従二位が追贈され、嵯峨上皇はその死を悼んで挽歌2篇を詠んだという。空海との親交でも知られ、空海の詩などを弟子の真済が集成した「性霊集」には、空海が安世に贈った詩が多数収められている。